道風さんを称えた俳句

多くの方は、まだあまりご存じないかもしれませんが、下記の俳句が密かに知れ広まっています。

俳句としての出来の良し悪しはともかく、この一句には小野道風に関する多くの意味が隠されています。紹介させていただきます。

①　②　③
しらかみ　に　くろう　かさねてさんせきに

白紙に苦労重ねて三跡に

①　白紙 －（はくし）－（894 年）

小野道風は **894 年**に松河戸の里に生まれました。この年に、菅原道真が天皇に進言して遣唐使が廃止となりました。

これにより、今までの唐風文化から日本独自の文化が生まれることとなります。道風は**白紙**に向かい、新しい和の書を創始することとなります。

②　苦労 －（くろ～）－（966 年）

道風は晩年目を悪くしましたが、**苦労**して和様の書を創始し三代の天皇に仕えます。その書はおだやかで美しく、新しい書として高く評価され、当時から誰からも愛され尊敬され手本とされてきました。

そして、**966 年**に京都市の杉坂道風町にて終焉を迎えました。

杉坂道風町にある道風神社の鳥居
ここに道風公が眠る

③　重ねて三跡に　（1932 年）-（ひとくさに）-（人草に）

道風没の 966 年を**重ねる**(2 倍する)と、**1932 年**(昭和 7 年)となります。

この頃、松河戸では道風公の顕彰活動が盛んに行われるようになりました。

大正 14 年に設立された「道風公出生地保存会」は、この年「「道風公誕生地遺跡保存会」と名称変更され、現在の顕彰活動の基本ができあがりました。

そして、地元住民による道風公顕彰活動が盛んに行われるようになり、まさに※**人草に**愛され、そして地元では「とうふうさん」と呼ばれ親しまれ、**三跡**として誇りとしてきました。

※人草に……多くの人に、庶民に

戦前の道風公の顕彰活動

昭和７年(1932)頃を中心に道風公の顕彰活動が盛んに行われ始めました。

大正４年(1915)	・大正天皇の即位の大典に当たり、愛知県から「小野道風公誕生地」の標石が建てられる。
大正 14 年(1925)	・青柳堂主人澤井氏は、道風顕彰活動は自分の責務と誓い、自らが発起人となって「道風公出産地保存会」を設立した。その趣意書には、松河戸に道風公関連施設の建設、道風公の命日(11 月 12 日)に祭典を行い、書道展覧会や講演会を開催することなどを会の目的とすることが記されている。
昭和の初め	・今の競書会の前身に当たるような生徒の書会が観音寺で開かれる。
昭和４年(1929)	・９月　観音寺山門前に道風公の立像が建てられる。
昭和５年(1930)	・５月書道界でまだ行われてなかった小学生の席上揮毫大会を催し、この一連の活動が「県下児童生徒席上揮毫大会」や「小野道風公生誕 1050 年祭」の原形となる。
昭和６年(1931)	・６月　CK 放送(名古屋中央放送局)の偉人講座で石田泉城の「蛙で名高い小野道風」が放送される。
昭和７年(1932)頃	・「道風公出産地保存会」から「道風公誕生地遺跡保存会」と名称変更される。 ・安藤直太朗が道風の研究を「月間東亜書道誌」に毎号掲載する。 ・小野小学校校長波多野昇が道風の研究を雑誌に掲載する。 ・道風の生誕地は松河戸でなく上条だとする説が現れ、論争が起こる。 上条で発行された「書聖日本三蹟小野道風公誕生地檜葉書」５枚組が残っている。 しかし、様々な論議の結果、松河戸がその生誕地であると一般に認められる。
昭和９年(1934)	・道風公誕生 1040 年記念に、安藤直太朗が「郷土の生める小野道風公を語る」という題で、CK 放送で話している。尚この時の話は、小冊子にまとめられている。
昭和 10 年(1935)	・遺跡保存会は、「小野道風公誕生地並遺跡保存に就いて」という冊子を発行し、松河戸が道風の生誕地であるという正統性を論解している。
昭和 11 年(1936)	・地元書道家の先生方の呼びかけで、小野尋常小学校で　「県下児童席上揮毫大会」が始まる。
昭和 12 年(1937)	・観音寺門前に「市川小松氏之碑」が建てられる。 ※　小松は、名古屋市古出来町(岩田氏)で生まれ、女性の歌舞伎役者で市川団十郎の弟子であり、小野道風役が上手で名古屋で好評を博した。 小松氏が観音寺七世高厳和尚の縁者であることから小松氏の一族によって建てられた。
昭和 19 年(1944)	・太平洋戦争末期の混乱のなかにもかかわらず、国内の大家も出席して小野道風公生誕 1050 年祭(道風祭)が盛大に行われる。

※　戦後も顕彰活動が続く。

松河戸文化科学探求隊隊長　長谷川　浩